

年月日

20
01
24ペー
ジ

27

NO.

最近、新聞や雑誌の記事で、人工知能（AI）に関する「2045年」問題と言う言葉をよく目にするようになった。2045年にコンピュータの能力が人類を超えるとするようになつた。

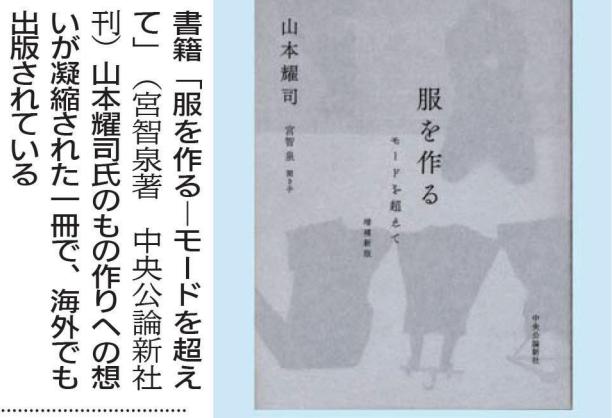
ターやAIのできる仕事をの領域が増えてきていることを感じる。そんな中で、私が心を打たれた手仕事の話を紹介したい。

通常家具工房では家具の製作の過程で、モックアップを作成する。モックアップとは、工業製品の設計・デザイン段階で試作される外見を実物そつくりに似せて作られた模型のことだ。今の時代は、この模型づくりにおいても、テクノロジ

ーの進化と、コンピューターの進化と、コントローラーの進化と、モードを超えて、様々な問題が議論を呼んでいるのだ。このような話題が絶えないほど、AIやテクノロジーの進化のスピードは速い。空間デザインの世界においても、テクノロジ

△デザインのチカラ△

(25)



書籍「服を作る—モードを超えて」
(宮智泉著・中央公論新社刊) 山本耀司氏のもの作りへの想いが凝縮された一冊で、海外でも出版されている

み、効率的でより正確に作られるようになってきている。

しかし、私がイタリアで出会ったモテリストは、デザイナーの描いた手書きのスケッチから模型を手作りで造つていた。彼は80代だが、最高の仕事をする匠として地位も高く、世界のトップデザイナーから、尊敬

A.I.にできない手仕事

を集めていた。彼の手から作り出された模型には、何か温かみがあり、人の手によるいびつさをも美しさにつながっている感覚だ。人間の手でしか作り出すことができない領域は必ず残ると思う。わせる体験だった。

表「オールブラックス」のジャージーをデザインした世界的ファッショニアンデザイナー山本耀司氏は、手仕事の大切さをモノづくりの中に残していく。手仕事の大切さをモチーフとした模型紙を簡単に入れることで、手仕事を大切にすることは、匠の仕事の力を大切にしていくと語る。コンピューターで型紙を簡単に作れる時代(見月伸一・三井デザインメント部長)

出していく魂を感じる」という彼のデザインのファンは世界中に多く、若者からの人気も多い。着ている人と服との勝負をしているという彼のデザインが人々の心を捉えるのを理解している。手仕事の大切さをモチーフとした模型紙を簡単に入れることで、手仕事を大切にすることは、匠の仕事の力を大切にしていくと語る。コンピューターで型紙を簡単に作れる時代(見月伸一・三井デザインメント部長)